

ブリュッゲル展 画家一族 150 年の系譜

東京都美術館 2018.01.23～04.01 豊田、札幌、広島、郡山各市を巡回



16～17 世紀の欧州において最も影響力を持った画家一族のひとつであった、「ブリュッゲル一族」の祖「ピーテル・ブリュッゲル 1 世」(1525/1530～1569) は、現実世界を冷静に見つめて、日常生活をありのまま表現した革新的な画家であった。

ブリュッゲル家系は画家一族で、長男の「ピーテル・ブリュッゲル 2 世」(1564/65～1637/38) は、農民の生活を数多く題材にしたことから「農民画家」と呼ばれ、作品が全く驚くほど細かい箇所まで丹念に描かれているのは、巨匠「ヒエロニムス・ボス」の影響が非常に大きいとされている。

ピーテル・ブリュッゲル 2 世《野外での婚礼の踊り》(部分) 板・油彩

農民の結婚祝いの舞踏を描いた画面で、注目は農婦たちの多種多様な「頭巾」で、巻き方にも工夫がされて陽気な活力に満ちて楽しげな農民風俗画である。

ヤン・ブリュッゲル 1 世・2 世《机上の花瓶に入ったチューリップと薔薇》



二男の「ヤン・ブリュッゲル (1568～1625)」は、兄「ピーテル 2 世」とともに特に水彩画を学び、静物画・花の絵を得意としたため「花のブリュッゲル」と呼ばれて数多くの大作を描いている。

1 世と 2 世の共作のこの作品は、チューリップも入った豪華な静物画で、“命あるものは必ず衰える” “死んだら富は無駄” などのメッセージが込められている。

本展は、大半が本邦初公開の貴重なプライベート収集品を中心に「約 100 点」の作品により、「ブリュッゲル画家一族 9 人の作品」が揃い踏みする企画で、それぞれの作品を見比べることで一族の全体像を見ることができる貴重な展覧会の企画である。

「ブリュッゲル家」は、約 170 年間・五世代で少なくとも 18 人が画家として活躍した家系で、特に著名なのは「長男ピーテル 2 世」と二男の「ヤン」であるが、孫の時代の「ピーテル 3 世」や「ヤン 2 世」らの作品も見物である。